

Case

24

自宅での看取りを叶える医療・介護連携情報システムを提供

医療と介護の両分野をカバーし、基幹病院、地域病院・診療所、福祉施設のデータを一元管理できるシステム「Barrier Eye」を開発。AIによる最適な治療、訪問看護・介護計画の策定を支援する病気傾向導出機能やスケジュール自動作成機能も搭載している。

他にはない医療・福祉連携システム

自治体では医療計画によってその地域で現時点で必要な病床数を策定して「基準病床数」を定めていますが、例えば横浜市のように、「既存病床数」が「基準病床数」に足りていない自治体があります。また、高齢化が進むことで「必要病床数」が不足する恐れがあります。しかし、病床数増加のために病院を作る増床することは簡単に対応できるわけではありません。そこで今後、介護施設への入居に加え、自宅への訪問看護・介護が増えると思われます。

近年、医療現場での電子カルテの普及は進んでいます。各医院・病院で導入するシステムは異なっています。地域によっては行政が旗振りをして地域医療包括連携システムとして構築する動きが出ており、患者のかかりつけ医の診療データを在宅医療後方支援病院と共有できるようにしつつありますが、医療と福祉では制度の違いが壁となり、患者の情報が共有されにくいのが実情であり、今まで医療と介護の垣根を越えて情報を共有でき

事業名：株式会社ブレスビット

事業年度：28年度

事業テーマ：在宅療養支援病院と地域医療・介護施設を結んだ地域医療包括連携の実現



企業概要

当社は、汎用機からPCに至る様々なハードウェアに対応したソフトウェアの開発・販売・コンサルティングを実施。多様化する顧客ニーズに的確に応え、ニーズが高まるデータウェアハウス（DWH）構築にも提案から移行・保守までのトータルサービスを提供。なかでも大量のデータからの分析・シュミレート・分析システムを長年企業と共同で研究開発を行ってきた。都市銀行向けには「リスク分散管理システム」、自動車メーカー向けシステムでは設立時から車載カメラからの情報を使って車両制御システムを基礎研究・実証実験・市販モデル構築まで携わった。また、観光案内アプリ「Dokoiku?」や病院外来患者呼出しシステム等も展開している。

会社名 株式会社ブレスビット
代表者名 代表取締役 達知 強志
設立年 2000年
所在地 〒232-0064 横浜市南区別所 1-3-31 静心ビル2F
従業員数 6人
資本金 1,200万円
TEL 045-730-1656
FAX 045-730-1657
URL <http://www.breathbit.co.jp/>

高齢化により介護の人手不足は今後更に顕著になり、現場の効率化を図ることは急務と言える。当事業の最大の成果は、使用言語や環境が異なる医療と介護の両分野の現場の声に着目し、その悩みを反映した情報共有システムを構築したことである。社会情勢やニーズに合ったツールであり、今後の拡大に期待したい。

調査員考察

判定実行

判定結果

可能性1位	肺炎	指数	47.5
可能性2位	風邪	指数	43.8
可能性3位	気管支炎	指数	36.8

全体情報

過去データへの登録

医師の判定 風邪

判定結果の登録

過去データ

疾病	患者数	発熱	高熱	低熱	頻呼吸	過呼吸	多呼吸	頻脈	徐脈	動悸	低血圧	軽高血圧	高血圧	咳	息切れ	睡眠障害	言語障害	記憶障害	運動低下	歩行障害	手先障害	吐き気	嘔吐	
脳卒中	10	5	2	1	2	0	0	1	1	2	0	22	38	7	4	13	4	24	5	8	16	26	9	1
脳梗塞	7	3	1	0	0	1	0	1	0	2	0	6	20	3	1	7	7	14	3	12	21	19	10	3
心不全	8	3	2	0	1	1	0	0	1	28	10	10	17	2	4	28	2	2	0	9	2	2	1	0
心動悸	11	10	3	1	3	6	5	3	2	7	1	19	37	4	3	13	6	1	0	5	1	0	18	1

▲AIによる疾病判定機能

患者情報入力画面

ログインID: YOKO
ユーザー名: 横浜病院

情報入力待ち

カルテ番号 AAA1111 登録申請日
患者名 大竹 雄一 患者名カナ
ステータス (情報入力待ち) 変時 入院日
生年月日 昭和 12 年 未定 04 日
住所 横浜市中区高島町3099
届出院名: 横浜病院
担当医師 西田 修一

参照... 画像アップロード

被保険者番号 被保険種別 無し
介護被保険者番号 要介護度 無し 認定有効期

緊急時連絡先① 氏名・カナ 居住 所属 アライ ヒロシ
住所 横浜西区大谷町2-3-4
電話 444-9999

緊急時連絡先② 氏名・カナ 田中 二郎 (972) 522
住所 横浜南区
電話 111-1111

病状等 肝臓病

▲訪問看護・介護支援システム(患者管理機能)



▲訪問ルート(スケジュール自動作成機能)

るシステムはありませんでした。当事業で開発した医療・介護連携システム「Barrier Eye」は、高齢化による病床不足を補う地域医療連携が可能となるもので、将来的には、救急車の中でも情報を確認でき、初動を早く、治療効果が高まる可能性もあります。

課題はAIの学習機能の精度向上と導入先拡大

当システムは、病気の傾向を予測できるようなAIの学習機能を実装しました。疾病判定機能の精度を向上させるには、標本となる実証データを増やす必要があります。大学の研究の知見、病院や看護・介護の現場の知見をフィードバックできればと考えています。また、行政の健康診断データを反映できると一気に精度は上がります。まずは神奈川県が推奨している「未病」プログラムをきっかけにして、行政が持つ「どのような人がどのような不定愁訴・症状があるか」という情報を取り入れて、テキストマイニングを進めたいです。さらに音声入力、及び人手不足が進む介護現場向けに多言語化にも対応したいですね。